

ファイナルレポート

国際レーザー・オプトエレクトロニクス応用技術専門見本市
インド / バンガロール国際展示会場
2026 年 9 月 16 日～18 日

2026 年 9 月 28 日

過去最大規模となった Laser World of Photonics India インドの先端製造エコシステムを一段と強化

Summary

- 2026 年の開催では、14 カ国・地域から 155 社が出展し、21 カ国・地域から 10,962 人が来場した
- Buyer-Seller Forum には 308 社のバイヤー企業が登録し、581 件の商談が行われた
- ドイツ、中国などの各国の専用パビリオンが設置され、海外からの受け入れ体制が一段と強化された
- 併催プログラムでは、Photonics Research and Innovation in Science and Manufacturing や Smart Manufacturing with Lasers Conferences が開催された
- 新たに導入した Industry Connect では、海外の主要 40 ブランドが参加。CMTI (Central Manufacturing Technology Institute) 視察を通じて、インドの製造技術の進展と可能性への理解を深め、会期前から会期中にわたる継続的な連携を促進した
- Laser World of Photonics India CONFEX 2026 の立ち上げを発表。Pune の自動車・航空宇宙分野における製造技術の高度化を軸に市場開拓を進め、MMI は ARCI と連携して継続的な取り組みを進める

Facts & Data

会 期	2026 年 9 月 16 日(水)～18 日(金) 午前 10 時～午後 6 時(最終日午後 5 時)
会 場	インド・バンガロール国際展示会場 Bombay Exhibition Centre (BEC)
主 催	Messe München - メッセ・ミュンヘン Messe Muenchen India Pvt. Ltd. - メッセ・ミュンヘン・インド
出 展 規 模	6,600 m ² (2025 年:6,000 m ²)
出 展 企 業	14 カ国から 155 社(2025 年:20 カ国から 150 社)
来 場 者 総 数	21 カ国から 10,962 人(2025 年:10,844 人)
主 な 出 展 品	レーザー・オプトロニクス、光学、オプティクス、センサー・テスト・測定技術、サービス、レーザシステム製造技術、光学測定システム、光学情報技術
出 展 日 本 企 業 (現法出展含む)	(株)オキサイド、(株)オハラ、(株)Quantec、(株)島津製作所、(株)ナガタ 他
専 用 U R L	www.world-of-photonics-india.com (英語)

Laser World of Photonics India 2026 は、9月16日から18日に、バンガロール国際見本市会場(BIEC)で開催され、過去最大規模となった。本見本市には、レーザ、オプティクス、フォトンクス各分野におけるインド国内外の業界関係者が一堂に会した。

本見本市では、切断、溶接、マーキング、クリーニングなどのレーザによる材料加工をはじめ、オプティクスやオプトメカニクス、イメージング、分光、マシンビジョン、光学計測、精密計測、積層造形、フォトンクス関連部品など、幅広い技術が紹介された。

今回の開催では、6,600平方メートルの会場に、14カ国から155社が出展し、3日間で21を超える国・地域から業界関係者10,962人が来場した。



本見本市には、レーザやフォトンクス技術が急速に存在感を高めている広範な業界の代表者たちが多数来場した。具体的な対象分野は、自動車・電動モビリティをはじめ、エレクトロニクス、半導体の設計・製造、航空宇宙、防衛、ヘルスケア(医療・健康)、電気通信、産業用機械、精密エンジニアリング、そして最先端の科学研究に至るまで、多岐にわたる。

Buyer-Seller Forum は、本見本市における重要なビジネスプラットフォームとしての役割を果たした。出展企業は、581件を超える商談を通して、進行中のプロジェクトや生産能力の増強、プロセスの改善、そして今後の調達に向けて、先端技術の選定・評価を行うバイヤーや意思決定者との強固なネットワークを構築した。また、このフォーラムには308社を超えるバイヤー企業が登録している。

CMTI(Central Manufacturing Technology Institute:政府系の国立研究開発機関)による新たな「国際視察団招致プログラム」により、インド国内外から有力な技術幹部や有識者などの38名を超える専門家が来場し、出展企業と集中的な交流が行われた。このプログラムを通して、レーザ技術や精密製造の適用分野、さらには産業連携の可能性について活発な議論が交わされた。

Laser World of Photonics India CONFEX に関する MoU(覚書)の締結は、産業界と研究コミュニティの連携を強化する上で重要な一歩となった。この取り組みは、次世代のレーザやフォトンクスの応用分野における、継続的な知見の共有と、より緊密な共同研究を促進するものである。

技術の応用と導入に焦点を当てた産業界の主体的な関与

実演による技術紹介と技術上の知見交流を通して、来場者は各種システムを比較検討し、用途への

適合性を評価するとともに、メーカ、サプライヤ、ソリューションプロバイダと直接対話することができた。

製造およびエンジニアリング部門の担当者は、切断、溶接、マーキング、クリーニング、表面処理向けのレーザシステムについて検討した。また、技術導入を担う購買担当者は、産業、科学、研究用途向けのオプティクス、イメージング、センシング、計測、分光、マシンビジョン、フォトニクスコンポーネントの最新技術を検証した。

世界各国の出展企業や代表団の参加は、技術提携、販売代理店契約、アプリケーション開発、そして成長を続けるインドの先端製造市場への参入の機会を創出した。

メッセ・ミュンヘンの IMEA プレジデントであり、メッセ・ミュンヘン・インド CEO のブピンダー・シンは、「今回の Laser World of Photonics India は過去最大規模の開催となった。これは、インドの製造業、研究分野、高精度産業において、レーザおよびフォトニクス技術の戦略的重要性の高まりを示すものである。CMTI 代表団の来訪、Buyer-Seller Forum の拡充、Laser World of Photonics India CONFEX に関する MoU(覚書)の締結といった取り組みによって、産業界、研究機関、技術分野の連携は一段と強化された。当方は、市場の変化する優先課題と、インドが目指す先端製造業の推進構想に沿って、このプラットフォームの更なる発展に引き続き尽力していきたい」と述べている。

そして、メッセ・ミュンヘン CEO のラインハルト・ファイファーは、「海外から 78 社が出展したことは、成長を続けるインドのレーザおよびフォトニクス市場に対する世界的な関心の高さを裏付けるものである。CMTI 研究所への視察を通して、海外の出展企業は、インドの製造能力、研究インフラ、そして求められる応用分野について、より深く理解することができた。こうした交流は、企業が初期的な市場開拓の段階を越え、技術協力、現地企業との提携、そして長期的な事業展開に向けた実質的な機会を見いだす一助となる」と述べている。

先端研究と産業応用を結ぶカンファレンス

併催プログラムは、「Photonics Research and Innovation in Science and Manufacturing (PRISM)」と「Smart Manufacturing with Lasers」の両カンファレンスを中心に構成された。PRISM カンファレンスは IEEE Photonics Society India Chapter と IEEE Photonics Society Bangalore Chapter の協力によって開催された。また、「Smart Manufacturing with Lasers」カンファレンスは Laserman India(インドのレーザ産業における有力専門メディア)との開催である。両カンファレンスには各国の代表団も参加している。

PRISM カンファレンスのプログラム 6 では、「Quantum Photonics in India(インドにおける量子フォトニクス)」と「Photonics in Space & Communication(宇宙・通信分野におけるフォトニクス)」の 2 つの専門セッションが実施された。

・「Quantum Photonics in India」セッションでは、最先端の基礎研究をいかに実用的な通信ネットワーク、企業の事業アプリケーション、そして次世代の技術教育へと落とし込んでいくか、その具体的な口

ードマップと技術革新の進展状況が検証された。

活発な議論のなかでは、6G 時代を見据えた衛星通信の基盤となる「自由空間光通信技術」、最先端の量子通信ネットワークを仮想空間上で精密に再現する「デジタルツイン」、そして今後の量子技術開発を根底から支える専用の「フォトンクスツール」や「教育インフラ」の整備方針といった、市場の未来を拓く重要テーマが次々と取り上げられた。

・「Photonics in Space & Communication」セッションでは、最先端の防衛エレクトロニクス分野におけるフォトンクス応用をはじめ、次世代の電子・X 線・陽子線を生み出す「高強度レーザ光源」、高度な通信・センシングを可能にする「フォトンクスシステム」、そして超長距離通信の基盤となる「マイクロアライメント技術」など、宇宙および通信市場の未来を担う主要テクノロジーが包括的に取り上げられた。

「Smart Manufacturing with Lasers」プログラムでは、自動車および電気自動車製造、防衛、一般産業製造、積層造形(3D プリンティング)、機器の再生・修復、精密ツーリング、そして厳格な品質管理に至るまで、幅広い産業におけるレーザ技術の具体的な適用事例が検証された。さらに、フォトンクスおよびスマート製造分野への「女性の参画拡大」といったダイバーシティの推進に加え、今後のインドレーザ市場の成長を左右する課題と新たなビジネスチャンスについて、多角的な議論が交わされた。

業界団体がエコシステムの発展を支援

本見本市は、国際的団体である VDMA(ドイツ機械工業連盟)の Laser and Laser Systems for Material Processing(レーザ・材料加工レーザシステム部会)、European Photonics Industry Consortium(欧州フォトンクス産業協議会)、および SPECTARIS(ドイツ・フォトンクス産業協会)からの強力な支援に加えて、インド国内の産業基盤を支える Laser Industries Association of India(インドレーザ産業協会)や Optical Society of India(インド・フォトンクス協会)といった主要な国内組織からも全面的な支援を受け、盤石な協力体制が構築された。

これらの団体の参加は、テクノロジー企業、研究機関、製造企業、そして業界団体の相互連携を強固にするものとなった。この緊密な協調体制は、次世代技術の応用開発をはじめ、人材の能力育成、国際標準化への対応、研究成果の事業化、さらにはグローバルな国際協力体制の構築に向けた、継続的な知見の共有を力強く後押しするものである。

インドの先端技術エコシステムの発展を支援

2026 年開催は、インドの製造業と研究開発分野において、レーザとフォトンクスの重要性が一段と高まっている実状を浮き彫りにするものとなった。会場で実演・披露された具体的なソリューションは、材料加工や生産の自動化をはじめ、精密検査、センシング、イメージング、さらには高度な科学計測に及んで、現代の産業界が求める多様な要件に応えるものである。

Laser World of Photonics India は、装置メーカー、コンポーネントサプライヤ、システムインテグレータ、研究者、そして産業ユーザーを緊密に結びつけることで、先進技術の評価、知見の共有、そして新た

なビジネス創出に特化した最適な環境を提供した。

次回の「Laser World of Photonics India」は 2027 年に開催される。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ <https://world-of-photonics-india.com/en/> まで。

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel. : 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語 / ドイツ語)